

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をホーム内に掲示すると共に、スタッフはクレドを携帯し、欠かさずに朝礼時に暗唱して、毎日の実践に繋げています。	理念を面談室や事務室に掲示し来訪者にわかりやすくしている。ホーム独自の理念、「地域に愛され必要とされるホーム」「自分の家にいるような気楽で気ままな生活ができるホーム」を記載したものを職員各自が携帯し法人のクレド(信条)などと交互に毎朝唱和し実践につなげている。職員のゆとりのある介護が利用者にも好影響を及ぼすことから管理者はその面からも確認し個別に指導している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区のイベントや防災訓練に参加したり、ホームのイベントに近所の方が参加して下さったり、回覧板をまわしていただいたりと交流を深めています。	組費を納め、地区で行われる行事などの情報も回覧板を通じ得ている。市の防災訓練で区民の一次避難所となっている。公民館で行われる地区の高齢者サロンに招待されたり、またホームの夏祭りでは地区の方々にもお手伝いいただき住民の方々に参加していただいた。高校生や歌・お踊りのボランティアの訪問もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々にホームのイベントや運営推進会議などに参加して頂いたり、ご挨拶した際の会話の中でも、認知症についてのご理解を徐々に頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に開催しており、ホームの運営やご利用者の生活状況を報告し、外部評価での取り組みや状況を報告する上でサービスの向上に役立てています。	奇数月に開催しており、参加者の都合に合わせて夜開いている。委員は家族代表、区長、民生委員、市職員に依頼している。地元の情報や会議で提案された意見・助言は日々の介護に取り入れサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者の方々には介護サービスの情報や相談にも気軽に応じて頂いたり、運営推進会議にも参加いただいています。	介護サービスの情報をいただいたり、各種相談に対応していただいている。介護認定の更新の際には市調査員がホームに来訪し家族からの依頼を受けホームからも情報を提供している。市の介護相談員の方が2名、3ヶ月毎に来訪し、生活の状況を見たり利用者の話を傾聴している。	職員の専門知識や資格を活かし、市と連携して認知症サポーター養成講座や介護教室を開催し認知症やグループホームについての啓蒙活動に取り組むことを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関には鍵をかけずに手動にするなどや所在確認をする事で、安全面でも配慮し、身体拘束をしないケアを実践しています。入社時や日常の研修等で身体拘束しないケアについて学んでいます。	日中玄関は手動で開閉している。30分毎に所在確認を記録し、帰宅願望のある利用者については職員がドライブに誘ったりホーム周辺を散策し拘束をしないケアを実践している。家族の希望でベッドから降りたときに音楽で知らせるセンサーマットを利用されている方もいる。身体拘束に関する学習会を年間計画に組み込み利用者の行動を抑制しないケアについて理解を深めている。	

愛の家グループホーム伊那山寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入社時や日常の定期的な研修で高齢者虐待について学び、ホームでも徹底して防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人を利用されているご利用者もあり、権利擁護、成年後見人制度に関して、ホームでも研修を実施しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約時、改定時に関しては、ご利用者やご家族へ不安な点や疑問点を十分に伺い説明する事や、書面によりご理解や納得を頂いた上で、行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人で実施しているご家族様アンケートとの結果を公表する事で、改善を行い、ケアサービスの質の向上を行っています。 面会時や電話連絡により、ご様子を細かく伝えたり、毎月のご様子や写真をご家族へ送付しています。電話を希望されるご利用者へは、自由にかけて頂いています。	利用者全員が言葉で思いを表出できる。家族には来訪時に直接お話しを伺ったり、遠方の方には電話で状況報告をする際に意見・要望を伺っている。家族アンケートを年1回実施して要望や意見を把握しサービス向上に努めている。家族会はないが、夏祭りやクリスマス会に家族が参加し家族同士の交流もある。毎月の請求書送付時、ホームからのその月のお便りとともにイベントなどの利用者の写真を添付し家族との意思疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、年に1度職員満足度アンケートを実施したり、半年に1,2度の個人面談を実施し、1人ずつ意見や悩みを伺っています。 また、毎月のユニット会議や全体会議でも意見や提案を出して頂き、反映させています。	毎月のユニット会議や全体会議で意見交換をしている。ホーム長の個人面談や職員満足度調査を実施し、個々の考えや悩みを把握し、サービスに繋げている。また、管理者は日常業務の中での声かけに努め職員の気持ちに寄り添うように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員が意欲向上できるように勤務状況や実績等を評価して給与に反映したり、資格取得のためのバックアップも熱心に行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人では、年度計画での研修が全職員に義務付けられており、また、外部研修において勤務しながら資格の取得もできるように、バックアップしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所との交流で、門扉を開いたホームとしてのネットワークを構築しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用前の見学や面談時、また、ご利用開始後に関してもご本人や、ご家族も含め、要望や不安を伺いながら、安心して生活できるような関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご利用前の見学や面談時、また、ご利用開始後に関しても、ご家族の、要望や不安を伺い、必要時は改善も実施しながら安心して生活できるような関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の必要とされている事を支援するべく、十分な聞き取りから想いや意向を見極め、幅広いサービス対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの日常生活を共に送るもの同士として、また、人生の先輩として指導を頂いています。なじみの中にも敬意を持ちながら喜怒哀楽を共有出来る関係作りを心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のホームでの生活を伝えるお便りや心身状態の変化時にはその都度ご報告や相談をし、また、外出や受診にも協力頂き、ご本人を共に支える関係を構築しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の関係が継続できるように電話連絡や面会を行ったり、なじみの場所へ出向いたり、買い物、外食なども実施し、大変喜ばれています。	利用者はホーム近隣の方が多く、友人や従姉妹の来訪を受ける利用者がある。理美容についても昔から利用していた馴染みの店に行き、整えている方がいる。行きつけの店へ買い物に行ったり、家族と月命日に墓参りに行かれる方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つ屋根の下で共同生活をする仲間として、お互いに認めながら支えあって暮らして頂けるよう適時職員が橋渡しをしながら、関係作りを大切にしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要時にはご本人やご家族のフォローや相談、支援を心掛けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族の希望や意向を第一とし、お話を伺いご希望や意向を汲み取っています。また、困難な場合は表情や仕草の中から汲み取り、ご本人本位のケアを実施しています。	全員の方が自分の思いや意向を言葉で伝えられる。自分から言わない方には職員が状況に合った質問で確認すると言葉で返してくれる。利用者の希望で1日の生活を組み立てたり、買い物をしたりと本人本位に支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用前に利用されていたサービス事業者やご本人、ご家族と話しあい、これまでの馴染みの暮らしが大きく変化しないように経過を把握したり、日常生活の中からも情報を集めて経過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録等を基に情報を収集し、現状の把握に努めています。必要に応じてセンター方式を活用し、その方の状況の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者は、日頃からご利用者やご家族とも連絡を取り、主治医や看護師、職員とも連携を取りながら、カンファレンスを実施し、介護計画を作成しています。	利用者の担当制はとっていないが職員は各ユニットに固定しシフトも組んでいる。ユニットごとのカンファレンスで情報収集を行い、計画作成担当者が介護計画を立案し、各ユニットの職員は全利用者を把握し介護に当たっている。家族には来訪時に確認していただき、希望があれば計画に赤ペンで追加していただいている。通常は3ヶ月毎に評価している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケア記録や申し送りにより、情報共有を行いケアの実践や見直しに役立っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容院や受診、買い物など、個々のニーズに柔軟に対応しています。		

愛の家グループホーム伊那山寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での馴染みの場所やイベント、防災訓練の参加等により心身共に安心して安全に生活が送れるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望を大切に、かかりつけ医を選択して頂いています。ホームの協力医は定期的往診しており(場合によっては受診します。)適切な医療を受けています。その他の医療機関へ受診する際にも職員が同行し必要な情報を提供して連携をはかっています	家族の同伴でかかりつけ医に定期受診している方が多い。月2回協力医の訪問診療があり、緊急時にも対応していただける。医療機関の受診に職員が付き添った場合にはホーム長を窓口として家族に報告している。訪問看護師が週1回来訪しており、健康チェックを受けたり相談をにかけている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週の訪問看護師の訪問時には日常の様子を伝え、話し合いやアドバイスを受け、受診や看護に繋げています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には病院に出向き、ご家族も交えて相談や情報交換を行い、早期退院に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した場合や終末期のあり方についてホームで出来る事をご本人とご家族に書面を用いて説明させて頂いています。重度化された方、重度化が予測される方はご家族や医療関係者と話し合いを行い、今後の方針を決めています。	重度化した場合の方針を文書に明記している。本人や家族の意向を尊重し終末期の支援を行っている。開設以来現在まで、ホーム内での看取りの経験はないが、今後、希望に十分沿えるように更に学習していく予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各電話に緊急・救急対応マニュアルを設置してあります。 定期的に心配蘇生法やAED使用方法を消防署またはホーム内で研修を実施しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	所轄の消防署や地域の自主防災会の協力を得て定期的に防災訓練を実施し、避難誘導訓練、消火器使用法訓練を行っています。地域防災訓練に参加させて頂いています。伊那市と災害時福祉避難所として協定を締結しています。災害時に備えて水や食料品の備蓄をしています。	消防署の協力を得て年2回、防災訓練を実施している。車椅子移動の必要な方が半数近くになるが、避難誘導訓練には利用者も参加している。連絡網での呼び出し訓練を年1回実施している。地域の防災訓練に利用者数名と共に参加し体験もしている。伊那市との協定でホームを市の福祉避難所とする協定を締結しており、非常時用の備蓄も2~3日分ある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は一人ひとりを尊重し、言葉かけや対応に配慮しています。 職員には適切な言葉や対応を行えるように管理者が研修を実施し、指導を行っています。	呼びかけは希望に応じて姓または名に「さん」づけで呼んでいる。日常生活は本人の希望を尊重して対応している。運営規定やマニュアルに記載されているように人格を尊重し言葉かけや対応に努めている。職員研修を年1回実施し、人権意識を周知している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中でご本人の想いや希望を伝えて頂けるように場所や環境を選んで会話をしています。また、様々な場面でご自分の意思で物事を決めて頂ける様に働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合でその日の生活が左右されないよう希望に添った生活作りに注意しています。出来る限りご利用者の生活ペースを尊重し気楽に気ままに活動できるように支援しています。		
39		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの身だしなみをおしゃれができるように自由に選んで頂けるように配慮しています。馴染みの美容院へ出かけるなどおしゃれを楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家にいる様な雰囲気大切にランチョンマットを使用したり食器類もできるだけ個人の好みのもを使用させて頂いています。食事の内容や食事の形態も個人に合わせて提供しています。時には外部の食事を取り寄せたり、外食をして楽しみを持って頂ける様に工夫をしています、食事の準備や片付けもご利用者の持っている力に応じて様々な役割を職員と一緒に頂いています。	献立は本部の管理栄養士が作成している。調理専門のスタッフが昼食と夕食を準備し、朝食を夜勤者が準備している。利用者が手作りしたランチョンマットを使用し、楽しい雰囲気の食事の光景であった。ランチョンマットを畳んだり同じ種類の食器を重ねたりと利用者も片付けを担っていた。夏季はホームの畑で採れたオクラ、トマト、ナスなど、野菜を使った献立も食卓に上り利用者の話題になっているという。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人管理栄養士による献立を調理担当者が作っています。食事時間や内容もお一人ひとりに合わせたペースで実施しており、毎日の食事摂取量を記録して検討しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	生活習慣から起床時に歯磨きをされる方もいますが、基本的には毎食後口腔ケアを実施しています。必要に応じて支援しています。定期的には義歯洗浄剤の使用もしています。また、協力歯科医に受診(場合によっては往診)して口腔環境を整えています。		

愛の家グループホーム伊那山寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご利用者やご家族の意向を踏まえ、オムツや下着を使用しています。また、お一人ひとりの記録で排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行っています。	約6割の方が自立しており、そのうち半数の方が布の下着を着用している。オムツ使用の方は少なく、夜間のみポータブルトイレを使用する方もいる。排泄記録をもとに声かけや誘導をし、不本意な失敗はほとんど見られない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事も野菜を多く使用した献立となっており、午前中のお茶の時間にヨーグルトや黄な粉、オリゴ糖などを提供しています。個々の排泄パターンを記録から把握し、ご本人に合わせて水分補給を行ないます。お茶、ポカリスエット、カルピス、ココア、紅茶等々好みに合わせて提供しています、散歩や体操、日常生活の生活動作から出来るだけ身体を動かして頂ける様に支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴される時間帯やタイミングはご利用者の希望に添うように配慮しています。ご希望で午前中の中の入浴も実施しています。出来るだけ入りたいと思った時に入浴して頂きたいと思っています。 また、足拭きマットもお一人ひとり交換しており、衛生対策を行なっています。	自立の方は若干名で、全介助で職員二人で介助する方もいる。見守り、背部洗身等の一部介助の方が大半である。入浴は毎日可能で午後の時間帯を利用している。本人の希望を優先し、少なくとも週2回は入浴していただいている。入浴を拒否される方には会話をしながら浴室を確認していただき、自ら入るように声掛けし関わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日の過ごし方はお一人ひとり自由にして頂いています。就寝前には団欒や足浴などや好みの飲料を飲まれたりと安心して眠りにつけるようにリラックスして過ごして頂いています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者の服薬状況がひと目で理解できるように服薬ファイルがあり、随時更新しています。ファイルにより、用法や用量、副作用についても直ぐに理解できるように実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今まで行なってきたことを大切に、ホームでも引き続き楽しめる様に配慮しています。また、気分転換も兼ねて、散歩やドライブ、外食といった事で、張り合いや気分転換を図って頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ホーム庭からの南アルプスの景色を眺めながらの外気浴や運動、近所への散歩を楽しんで頂いています。 ご希望の場所を伺い、計画を立てて外出支援を行なったり気軽に買い物へ出かけられたりと自由に過ごして頂いています。	毎日ホーム前の道を散歩している。個々の希望に応じて買い物や昔馴染みの場所への外出を計画している。年間行事計画は季節毎に立案し、春は桜、夏はアジサイ、秋はブドウ狩りや紅葉狩り等を実施している。近隣に自然豊かで環境の整った場所が沢山あり、天気の良い日にはドライブを楽しんでいる。	

愛の家グループホーム伊那山寺

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には金庫で管理をし、買い物など職員が同伴してその方の持てる力によって支払いをして頂く等の支援をしています。ご本人より要望のある場合は出納帳の内容を確認していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族了承の上、ご利用者の希望に添って電話をかけたり、手紙を出しています。また、電話や手紙も取りついでいます。自由にやり取りして頂く事で、喜びの声も伺うことが出来ます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関から入ったひろびろとした空間には、花や季節の飾りをしています。また、食堂のフロアからは雄大な南アルプスがパノラマのように広がり、心地良い空間となっており、ソファでくつろぐなど、行なっています。	玄関フロアには季節の花が飾られている。廊下は利用者手作りの壁掛けや書、絵が飾られている。また、床は緩衝材が張られていて転倒などのリスクに備えている。食堂フロアの天井も高く広々と感じられる。東側には南アルプスの雄大な姿を望むことができ心地よい空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲間の皆様と談笑したり、または、ゆっくりと1人での時間を楽しめるように居間や廊下などの共用部分にソファやベンチを設け、思い思いに過ごして頂ける様に配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの家具や装飾品を持ち込んで頂いたり、写真や自分の作品を飾る事でその人らしい空間作りを実践しています。	ベッドの方、じゅうたんに布団の方と本人好みにつられてある。収納庫がありエアコンや換気器機も設置されている。手作りの作品や家族の写真を飾り自分らしい空間を作りだしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室出入り口には手すりを設置し、安全に移動できるように配慮しています。居室やトイレなどには目の高さにあわせた表示や表札を設置してあります。		